

解説！ディーバ社のIFRS自主適用

IFRS(国際財務報告基準)でディーバ社の決算はどう変わるのか？

IFRSは英国に本部を置く国際会計基準審議会(IASB)が設定し、現在世界約110カ国が採用または容認しています。日本でも任意適用は2010年3月期からスタートしていますが、上場企業への強制適用判断の時期は2012年とされています。

残念ながら任意適用の要件を充たさない(詳細はコラム参照)ディーバ社では、「実践」を通じてお客様のIFRS適用における支援能力を強化するため、自社決算(2010年6月期)にIFRSを自主的に適用しました。IFRSを参考に加工した決算書をもとに日本基準との違いを解説します。

ディーバ社決算(2010年6月期:2009年7月1日~2010年6月30日)の日本基準とIFRS*比較

日本基準:連結損益計算書(単位:千円)

売上高	3,097,081
売上原価	1,630,301
売上総利益	1,466,779
販売費及び一般管理費	1,414,237
営業利益	52,542
営業外収益	521
営業外費用	15,586
経常利益	37,476
特別利益	-
特別損失	35,000
税引前当期純利益	2,476
法人税等	1,764
当期純利益	711

売上高は企業のIT投資抑制の中、期初計画に対して未達となり、利益面でも第2四半期に行ったインターネット・ディスクロージャー社の連結に関するコスト、さらにオフィス移転に伴う特別損失が発生しました。

IFRS:連結包括利益計算書*(単位:千円)

売上高	3,130,476
売上原価	1,669,635
売上総利益	1,460,841
販売費及び一般管理費ほか	1,443,520
営業利益	17,320
金融収益	522
金融費用	14,718
税引前当期利益	3,124
法人所得税費用	910
当期利益	2,214
その他の包括利益	1,012
包括利益	1,201

*日本基準で作成された連結財務諸表についてIFRSを参考にその一部を調整する方法により作成しています。

未使用有給休暇の処理方法の相違や資産除去債務に対応する減価償却費などにより営業利益が減額

IFRSでは、営業外損益、特別損益は、営業損益と金融損益に分割され、経常利益はなくなります。

従来の純利益に為替による純資産の変動分とヘッジ会計の繰延分が反映

IFRSでは、損益計算書は包括利益計算書となり、包括利益は、為替や株式、年金などの評価に大きく影響を受けるようになります。

日本基準:連結貸借対照表(単位:千円)

資産の部	
流動資産	1,995,948
固定資産	487,865
有形固定資産	114,697
無形固定資産	97,760
投資その他の資産	275,407
資産合計	2,483,813
負債及び純資産の部	
流動負債	1,021,008
固形負債	138,389
負債合計	1,159,397
純資産合計	1,324,415
負債及び純資産合計	2,483,813

資産・負債の適切な構成を目指した結果、自己資本比率は53.3%となりました。流動比率も195.5%と健全な財政状態を維持しています。

IFRS:連結財政状態計算書*(単位:千円)

資産の部	
流動資産	1,904,755
非流動資産	621,802
有形固定資産	160,720
無形資産	118,393
その他	342,688
資産合計	2,526,558
負債の部	
流動負債	1,078,137
非流動負債	182,194
負債合計	1,260,332
資本の部	
資本合計	1,266,226
負債及び資本合計	2,526,558

主な相違点は、収益認識基準の他、固定資産の償却方法、資産除去債務、有給休暇引当の認識など

IFRSでは、概念の基本事項だけを示す「原則主義」が採られており、従来の日本基準のような会計処理についての具体的な判断基準や処理方法が示されていません。そのため、企業は自社の会計上の判断理由についてこれまで以上の説明が求められるようになります。また、資産や負債の時価評価による価値の変動が財務諸表に織り込まれ、持合株式のような企業の潜在的リスクが「見える化」されます。

日本基準:連結キャッシュ・フロー計算書(単位:千円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	65,069
投資活動によるキャッシュ・フロー	69,600
財務活動によるキャッシュ・フロー	92,347
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,446
現金及び現金同等物の増減額	98,324
現金及び現金同等物の期首残高	1,367,195
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	11,401
現金及び現金同等物の期末残高	1,280,272

当期末における資金は1,280,272千円と、期首に比較して86,923千円の減少となりました。フリーキャッシュ・フローは、4,531千円となりましたが、インタレストカバレッジ(借入金に対する支払余力)は11.9倍と高い安全性を示しています。

キャッシュ・フローは会計基準の影響は受けない

キャッシュ・フローはIFRSによる会計基準の変更の影響は受けませんが、子会社の連結上の取り扱いの相違から、僅少な差が発生しています。